

事務局:〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

明治学院大学 経済学部大平研究室

e-mail: ohira@eco.meijigakuin.ac.jp

TEL & FAX 03-5421-5639

会費振込口座:「経営哲学学会」00160 - 9 - 573076

学会ホームページ: <http://www.jamp.ne.jp>

## 『経営哲学とは何か』の刊行のご報告

経営哲学学会20周年記念事業委員会  
厚東 偉介(早稲田大学)

経営哲学学会は島袋 嘉昌先生が中心になられて幾多の艱苦の末、設立されました。あの情熱とエネルギーがなければ、とても設立には至らなかったであろう。揺籃期を創設者とともに過ごし、その後、三戸 公先生の懸絶した奮励によりさらなる新生の時を迎え、2003年秋に創設20周年を迎えました。櫻井 克彦先生・村山 元英先生の両巨匠の力強いご支援のもと、中條 秀治先生が委員長になり、20周年記念大会が中京大学で開催されました。素晴らしい成果を納め、空前の大盛会でした。印象深い記念大会でした。

20周年記念大会を祝して『経営哲学とは何か』という、学会開設以来の念願であった学会の活動記録が会員に当日配布されました。本書は、経営哲学学会20周年記念事業として文眞堂から刊行されたものです。「経営哲学学会」の20年間の記録と経営哲学学会16/17/18の「経営哲学とは何か」という3回にわたる大会の統一論題の成果を基礎にした第19回大会の大シンポジウム大会の記録が中心です。報告と会員の発言・応答が収録されております。これまでの学会の研究成果のご一部ではありますが、学会の研究成果とその熱意を読み取ることができ、大変興味深いものです。

近代の哲学は、500年以上も前からの議論の蓄積の中から形成されてきました。我々の『経営哲学』の成果は少なくとも半世紀、さらには100年、200年と経たなければ、正確な評価はできません。こうした哲学の歴史を鑑みる時、今回の刊行は、将来、振り返り議論することができる細やかではあっても、そのための「礎」を与えたという意味において大きな意義を有するものであり、経営哲学の発展を念ずれば、今後時機に叶う続刊も不可欠でしょう。

このような意義のある『経営哲学と何か』を経営哲学学会の20周年記念事業として初めて刊行致しましたことを、ここに会員の皆様方に謹んでご報告申し上げますとともに、これまで経営哲学学会の運営にかかわられました多くの会員の方々のご尽力、お力添えに御礼申し上げます。そして会員の方々とともに、経営哲学学会が創設20周年を迎え、隆盛の時を迎えておりますことを、心から慶びたいと思います。最後に、このような時期に、市販の難しい本書をお引受け頂いた文眞堂には心からの感謝を申し上げます。

## 1. 名誉会員をお受けして

### 名誉会員をお受けして

三戸 公

名誉会員をお受けすることになったのは、ひとえに事務局を引き受け会の運営を見事に担って下さった大平浩二、石井脩二両教授のおかげであり、常任理事・理事とりわけ大会実行委員長の並々ならぬ御盡力の御かげである。あつく御礼申し上げたい。想えば名誉会員なるものは、私が代表理事になってすぐこの学会の創立者鳥袋嘉昌先生をいかに遇するかを考え、他学会の理事その他少なからぬ方々に意見をお聞きし、常任理事会に提議してのち長い期間をかけて決定したものであった。そして今、会員皆の経営哲学にかけて来たエネルギーが、大平浩二代表理事・厚東偉介編集委員長の熱意で結晶せしめられ『経営学哲学とは何か』(文眞堂)として成った。そして、私もまたその栄に浴することとなったのである。

個人として私は、いつか経営哲学そして哲学に没頭したいという念願を経営学を学び始めて以来もち続けてきたが、代表理事に就任して以来いやおうなくこの方向に傾斜してゆかざるをえない状況に置かれることになった。

そして、今私は次のように考えている。経営哲学なる学問は、経営学のみならず哲学にとって、また組織社会・管理社会の成熟した21世紀の初頭において、ひたすら機械化を追い求めて利便性の驚くべき実現をなお足らずとしつつも、その随伴的結果としての自然と社会と人間性の破壊の危機的進行の克服にとって、決定的意義をもつ最重要なる学問である。経営哲学をおいて、この危機を脱する道はない。

会員の皆様とともにこの学の深化・拡大・発展に努力したい。

## 2. 第20回全国大会報告

### 第20回 経営哲学学会全国大会 中京大学大会を終えて

大会実行委員長 中條 秀治(中京大学)

天候不順の短い夏が駆け抜けるように過ぎ、気づけば厚手の衣類の必要な季節となっていますが、会員の皆様にはお変わりなくご健勝のことと存じ上げます。

平成15年9月13日(土)14日(日)の両日にわたり、「経営哲学は死んだか? 日本企業の経営実践の基層を問う」という統一論題のもと開催された中京大学大会に多数ご参加いただき誠にありがとうございました。

地方での開催は通常参加者が少なく大会主催者側としては危惧するところもありましたが、盛会となった上に、大会内容についても参加者から好意的な評価をいただき主催者としての責任を果たせたことを素直に喜んでおります。

学会運営に関しては、初めての経験ということもあり、思わぬミスや想定外の事態への対応などで数々の不手際がありましたこと、ご迷惑をおかけした先生方には改めてお詫び申し上げます。

今回の統一論題の特徴は、「日本の経営哲学は死んだか?」「日本学と経営哲学の基層」「日本の経営哲学、そして世界の経営哲学」「“もう一つの”グローバリズムを探す」という一連のブル・セッション(討論型セッション)で構成されていること、および各セッションに学会員以外の他分野の著名な研究者を問題提起者ないし報告者としてお呼びし討論するという形式を採用しているところにあります。しかも、各セッションを2時間枠とし、フロアを含めた討論を1時間程度もつように各司会者をお願いしておきました。

哲学・思想関連の本格的な研究者を招聘しての全国大会は学会員への刺激となるばかりか、他の経営関連の学会との差別化を図り経営哲学学会の存在意義を知らしめる上で重要であり、今後の会の隆盛にもつながる方向だろうと感じています。また、各セッション2時間という時間配分については、今後の学会標準になればと考えています。従来、とすると、フロアからの質問で議論が盛り上がりを見せ始めた頃に、「時間切れ」あるいは議論が止まらず次の発表時間に食い込むというようなことがまま見られました。今回の2時間枠セッションはこうした不満に配慮した時間配分であり、発表者およびフロア双方の欲求不満がかなり解消されていたのではないのでしょうか。

最後に、代表理事の大平浩二先生はじめ理事会の皆様には大変お世話になりましたこと御礼申し上げます。また、中京大学の村山元英先生、桜井克彦先生にはプログラムの企画段階から積極的にご参加いただき、多大のご協力とご尽力をいただきましたこと改めて感謝申し上げます。

### 3. 次期第21回全国大会(青森公立大学)のご案内

日時:平成16年8月6日(金)7日(土)8日(日)(6日は理事会)

場所:青森公立大学 実行委員長:吉原 正彦先生

青森では7日までねぶた祭りが開催されます。宿が大変混みあいますので、早めの予約をお願いします。

#### 大会での自由論題報告を募集

報告希望の方はタイトルと簡単な概略を800字以内にまとめて事務局までご連絡ください。

### 4. 国際交流ならびに他学会等との合同研究会のお知らせ

#### 国際交流

#### 経営哲学学会・アラスカ大会

#### 英文論文報告と研究交流参加者の募集

国際交流委員会委員長 村山 元英(中京大学)

私どもの経営哲学学会の「海外研究交流プロジェクト」が、平成16年5月26日～28日にアラスカ/アンカレッジで開催される第21回「環太平洋学術交流会議」(Pan-Pacific Conference XXI)に合流する承認を頂戴しました。「環太平洋ビジネス学会」(Pan-Pacific Business Association)との共同開催ですが、日本側は論文参加の形で大会運営はネブラスカ大学/アラスカ・アンカレッジ大学などにお任せしました。続けての平成17年度は、上海大会が決定しています。つきましては、下記の要領で英文論文の発表者と海外研究者との交流機会の希望者を募集しますのでご参加下さい。

提携先の相手である国際学会を簡単に紹介します。「環太平洋学術交流会議」は、昭和56年10月にネブラスカ大学で「日米ビジネス研究交流会議」として産声をあげ(実行委員長・S. M. Lee教授)、その2年後第2回大会を日本で開催し(実行委員長・加地元郎教授)、第3回のハワイ大学大会から「全米関連学会連合」(実行委員長・ハワイ大学学長)の形を整え、その後は「環太平洋学術交流会議」と名称を変更し、日米の研究者に限定せず環太平洋を軸にヨーロッパを含む多くの国々の大学関係者、経営者、行政マン、そして実務家や専門家の参加を得てきました。本拠地はネブラスカ大学にあり、S.M. リー教授を中心とするアメリカ経営学会(AMA)、組織学会(DIS)、国際ビジネス学会(AIB)などの指導的メンバー(会長経験者ら)によって企画・査読・運営されています。開催地はこれまで、東南アジア諸国(タイ、マレーシア、シンガポール、香港)、中国、韓国、日本、アメリカ、フィジー島、オーストラリア、ニュージーランドなど20地域です。

第21回大会は、つぎの日時と場所で開催されます。

場所：アンカレッジ・ヒルトン・ホテル(米国アラスカ州アンカレッジ市)

日時：2004年5月26日～28日

全体テーマ：

「国際ビジネスとグローバル・プロジェクト・マネジメント」(PPBA)

「経営哲学と経営実践 グローバリズムを世界に問う」(経営哲学学会)

中京大学で開催された先の理事会と総会の結果を踏まえてPPBAとの研究交流テーマを募集したところ早速のご提案に感謝します。下記のように研究交流のテーマを先方に伝えました。PPBA側は既に研究論文募集テーマを決定し全世界の会員に通知済みでしたが、経営哲学学会の研究交流提案テーマとPPBA側の論文募集テーマと重なる部分があるので、各種の分科会設定にあたり“組合せの妙”をアラスカ大会では期待できる方向ができました。

「環太平洋学術交流会議」(Pan-Pacific Conference)の国際学会にこれまで参加された日本の大学関係者は500名を超えています。その経験を生かしその後の専門分野や学会活動で貢献されている国際的な研究者を輩出してきました。

PPC(「環太平洋学術交流会議」)開催のこれまでの貢献とその成果は、若手研究者の海外発表訓練、海外研究者との専門研究交流、大学間交流の機会開発、日本での研究成果をグローバルに検証する感動、実務家から学者への自己学習の場、日米関係を越えたアジアや中国、そして世界の学者との豊富な交流機会などです。どうぞ、気楽な自己革新の機会として第1回「PPBA / 経営哲学学会」のアラスカ大会へのご参加をお待ちします。私どもの「国際交流委員会」の細く長い挑戦がアラスカ大会から始まります。創設活動期の感動を末永く共有できることを会員一同期待しています。

#### 経営哲学学会の提案テーマ

1. Toyota Production Ways, Ford or/ & GM Production Ways.
2. Entrepreneurship Development in Universities
3. Business Ethics and Corporate Governance Issues
4. Corporation Strategies and Management Philosophies
5. Corporate Culture and Management Philosophies
6. International Business and Management Philosophies
7. Management Education and Management Philosophy
8. Government, Business and Society in Policy Federation
9. Regional Development & Knowledge Creation Organizations

#### 環太平洋ビジネス学会の提案テーマ

- 1 Pan-Pacific business activities and international trade
- 2 Strategies for the Pacific Age
- 3 Organization behavior in international management
4. Innovation in operations management, production, and R & D in Pacific countries  
Global project management
- 5 Comparative business ethics
6. Transferability of management systems and technologies
7. Education reform for the 21st Century
8. Trade barriers, protectionism ,and anti-dumping laws
9. NAFTA, EU, GATT, AFTA, WTO and their implication
10. Public-sector reform, e-government
11. Tourism and hospitality

12. Environmental management
13. Business and information systems architecture
14. Internet, Intranet, and E-Business
15. International Finance
16. Global marketing
17. International economics

#### 【申込方法】

発表申込（題名のみ／仮題可）及び 2003年11月1日より  
論文概要提出（abstract paper） 2004年2月15日まで  
プロシーディング掲載用論文提出（full paper） 2004年4月1日まで  
審査後の掲載論文については頁制限あり（詳細は追ってお知らせ）。

#### 【申込先】 経営哲学学会・国際交流委員会リエゾン・オフィス（連絡担当）

中京大学経営学部・村山 元英研究室  
大学研究室：〒466 - 8666 名古屋市昭和区八事本町101 - 2  
声・052-835-7111（代表） 052-835-7622（直） ファックス・052-835-7197  
E-mail: murayama @mecl.chukyo-u.ac.jp 携帯：090-3409-6138  
自宅研究室：〒289-1618 千葉県山武郡芝山町山中987-2  
声・0479-77-1505 ファックス・0479-77-1877  
E-mail: fwhw4649@mb.infoweb.ne.jp

### ・ フード・サービス学会との合同研究会の開催（上原征彦理事）

現在、フード・サービス学会（上原征彦会長）との合同研究会を実施すべく準備中です。フード・サービス学会は、“食”に関わる業界（企業）を対象に実践に基づく活発な研究活動を行っている学会です。詳細につきましては出来るだけ早く次回会報（来年3月発行予定）ないしホームページにてお知らせいたします。

## 5. 関東部会報告

日時：平成15年7月19日（土） 場所：上智大学

### （1）吉田 絵里香（明治学院大学大学院）

報告テーマ 「店舗販売と通信販売における消費者行動」

（紹介とコメント：大隈 正明（新日本製鉄））

吉田絵里香氏の報告は、最近注目を浴びている通信販売が、既存の店舗販売からみてどのような位置づけになるのか、そして現在の消費者の購買意思決定とどのように関連しているのかを分析したものである。インターネットの浸透とも相まって、このテーマは時宜を得たものといえよう。

報告の前半は、各種資料の分析に当てられ、そこでは通信・カタログ販売の市場規模と売上高の順調な伸びが示されている。また、わが国の小売業全体の売上高が激減するなかで、通信販売の占める割合が極めて大きいことがわかる。

そしてさらに消費者からみて通信販売の利点として、時間や場所を問わないで利用できること 普段入手困難な商品が購入できること マイペースで時間をかけて選べること等があげられている。成熟化社会において、通信販売が一定の理解と評価を得てきていることを伺うことができるのである。

そのような通信販売であるが、吉田氏も指摘するように、既存の店舗との共存関係がこれからの課題となろう。本報告に関して、若干の希望を言えば、この共存関係にかんしての更なる堀下げを期待したい。若い同氏の今後の精進を期待しつつ、以上のような感想を添えてコメントとしたい。

## (2) 桑原 光一郎(上智大学大学院)

報告テーマ 「経営における『公共的なもの』と、トマス・アキナスの共通善思想」

(紹介とコメント:藤沼 司(明治大学))

桑原氏の報告は、「企業とは何か」という存在論的問いへの、より具体的には、「経営倫理」や「企業の社会的責任」といった問題領域への、トマス・アキナスからの接近である。経営学とトマスとの関連づけの新奇さのため、報告時間の多くが、全体と個人を結びつける「公共的なもの」、トマスの共通善、トマスの徳理論、そしてトマスの社会哲学といった、トマス倫理学の概観およびその原理的な検討に費やされた。桑原氏は、企業には、「善き生」としての共通善の内実について不断に問う「開かれた討議の場」として在り、共通善を実現させる手段であることが要請される、と主張する。これを受け質疑応答は、経営哲学の原理的な研究についてのトマス倫理学の意義、またトマス倫理学をより具体的な経営実践の場にどのように適用するか、という点に集中した。

本報告の根底には、今日の社会科学に見られる、「善き生」に関わる価値研究を棚上げする傾向への桑原氏の批判がある。それゆえ本報告は、状況との関わりの中で倫理のあり方を根本から問うトマス倫理学を通じて、「公共的なもの」に関わる一つの価値の提示を目指した。桑原氏の報告から、より根源的に経営の意味を問う原理研究から、より具体的な経営実践の問題までを扱うという経営哲学研究の奥行きの深さを実感させられ、改めて、原理的研究と実践的研究との往復運動という点に経営哲学研究の醍醐味があることを再確認することができた。

## 6. 中部部会・関西部会合同部会のご案内

### 経営哲学学会合同部会のお知らせ

中部部会長: 中條 秀治  
関西部会長: 三井 泉

中部部会・関西部会の合同研究会を下記の日程で行います。今回は初めての試みとして、福井にて一泊の合宿形式で行います。そこで、この機会に、地域の経営者に実践的な経営課題と経営哲学についてお話いただき、この学会を開かれた議論の場にしていきたいと考えております。どうか、皆様ふるってご参加ください。

日程: 平成15年12月20日(土)

場所: 越前三国 国民休暇村

住所: 〒913-0065 福井県坂井郡三国町崎(越前加賀海岸国定公園)

電話0776-82-7400 ファックス0776-82-7401 <http://www.qkamura.or.jp/echizen/>

#### 1. 報告(14:00~15:15)

報告者: 奥村 真澄氏(特別養護老人ホーム 施設長)

論題: 「特別養護老人ホームの経営(「光 苑」の事例)」(仮題)

#### 2. 講演(15:30~16:30)

講演者: 今村 善孝氏(大電産業(株) 取締役社長: 福井経済同友会代表幹事)

論題: 「自社の経営と経営哲学」(仮)

\* 17:00より懇親会を予定しております。

尚、準備の都合上、11月末日までに事務局までご参加の有無をお知らせいただければ幸いです。  
お問い合わせも事務局までどうぞ。

## 7.九州部会のご案内

日時 平成15年11月22日(土) 13:30-17:00  
場所 九州産業大学1号館10階 経営学部中会議室  
報告者 (1)「経営学の主流と本流 管理の科学と哲学」  
池内 秀己(九州産業大学)  
(2)「経営学とはいかなる学か その主流と本流」  
付)人的資源管理と自己点検・自己評価」  
三戸 公(立教大学・中京大学名誉教授)

## 8.第20回全国大会(中京大学)会員総会報告

### 1. 諸報告

- (1)日本学術会議会員の選出  
奥林 康司教授(神戸大学)、飫富 順久教授(和光大学)
- (2)ホームページの更新  
<http://www.jamp.ne.jp>

### 2. 名誉会員の推薦

三戸 公先生の推薦

### 3. 平成14年度(H.14.9.1 - H.15.8.31)事業報告

#### (1)全国大会

第19回全国大会

開催校 早稲田大学

開催日 平成14年9月28日・29日(27日理事会)

統一テーマ「経営哲学の新たなる探求 総括的シンポジウム大会 - 」

#### (2)地域部会

##### (A)関東部会

・平成15年3月15日(土) 早稲田大学

小野 琢氏(明治学院大学・院)

「企業と社会 経営自主体的アプローチにおける企業の社会的応答」

藤原 七重氏(敬愛大学)

「情報化時代における個人情報保護と企業の競争優位」

・平成15年7月19日(土) 上智大学

吉田 絵里香氏(明治学院大学・院)

「店舗販売と通信販売における消費者行動」

桑原 光一郎氏(上智大学・院)

「経営における『公共的なもの』と、トマス・アクイナスの共通善思想」

##### (B)九州部会 平成15年6月28日(土) 九州産業大学

“三戸 公著『管理とは何か』「現代管理論の基礎?バーナード」をめぐって”

宇都宮 守氏「組織の概念」(九州産業大学大学院)

大石 雅也氏「求めざる結果から随伴的結果へ」(九州大学大学院)

##### (C)関西部会 平成15年7月26日(土) 帝塚山大学

岩田 浩氏(大阪産業大学)

「経営倫理学のプラグマティズムの転回 ローゼンソール達の所論を手がかりに 」

(3)会報

第31号 平成15年1月21日、 第32号 平成15年4月16日

(4)年報(20周年記念行事として)

『経営哲学とは何か』(文眞堂の出版)

(5)研究奨励賞

研究奨励賞審査委員会

(6)総会・理事会・常任理事会

総会	1回	平成14年9月28日
理事会	4回	平成14年9月27日・28日・29日/平成15年5月24日
常任理事会	6回	平成14年10月19日/平成14年12月7日/平成15年1月25日 平成15年3月15日/平成15年5月24日/平成15年7月19日

(7)各種委員会

プログラム委員会	5回	平成14年12月7日/平成15年1月25日 平成15年3月15日/平成15年5月24日/平成15年7月19日
広報委員会	2回	平成14年12月7日/平成14年4月10日
20周年記念行事委員会	11回	平成14年10月19日/平成14年12月7日/平成15年1月25日 平成15年3月15日/平成15年5月24日/平成15年7月19～21日 平成15年8月2日～4日

**4. 平成14年度決算(平成14年9月1日～平成15年8月31日)**



## 5. 平成14年度監査報告

### 監査報告書

別紙の経営哲学学会平成14年度の収支決算書につき、関係帳簿、証憑と照合した結果、収支決算書は適正なものであると認めます。

平成15年9月1日

会計監事

筒井 清子 (印省略)  
大石 剛 (印省略)

## 6. 平成15年度事業計画

(1)全国大会(第20回大会)

開催校 中京大学

開催日 平成15年9月13日・14日(12日:理事会)

(2)地域部会

北海道部会 東北部会 関東部会

中部部会 関西部会 九州部会

沖縄部会

\* 関西部会と中部部会との合同部会 12月20日(土)福井市

(3)会報

第33号 第34号

(4)機関誌の発行

『経営哲学』(仮)(「論集第20集」部分を含む)

(5)「機関誌委員会」(仮)の設置

(6)他学会等との交流

(7)総会・理事会・常任理事会開催予定

総会 1回

理事会 4回

常任理事会 6回

(8)各種委員会

## 7.平成15年度予算

## 8. 研究奨励賞審査委員会報告

受賞者：高橋 量一氏(亜細亜大学)

「経営哲学が支えた組織改革 伊藤忠商事の事例研究を通して」

### 経営哲学学会奨励賞審査報告

奨励賞審査委員会委員長 石井 脩二

1. 高橋 量一「経営哲学が支えた組織改革 - 伊藤忠商事の事例研究を通して - 」
2. 日詰 慎一郎「自己愛性パーソナリティ傾向が組織市民行動に与える影響に関する研究 - 傾性的アプローチによる高業績人材の発掘とマネジメントへの提言 - 」
3. 桑原 光一郎「コンティンジェンシー理論再考」
4. 間嶋 崇「ギデンス構造化論の組織におけるマイクロ・マクロ・リンク問題への応用に関する一考察」
5. 羽生 和夫「NPOの基本思考としてのボランティア概念」
6. 牧野 勝都「コーポレート・ガバナンス論の源流をもとめて - R.イールズの所論を中心として - 」

以上の結果から第一位の高橋量一会員が奨励賞に値するかと判断いたします。簡単に評価を書き添えます。

高橋論文は、問題意識と本学会への関連性という点では優れたものであったと評価者全員が認めるところでありました。しかし、伊藤忠商事がなぜモデルとして優れているのか、組織変革の枠組みはどのようなかといったより具体的な面での論及が少ないことは今論文の問題点でもあると言う指摘が妥当するように思いました。

日詰論文は、言葉が難しいもののテーマとしては面白いものであった。しかし、論述は難解で、結論はありきたりで、分析と考察が不十分であるように思いました。

桑原論文は、まとまっているもののなぜ今コンティンジェンシー理論に再度光を当てるのかと言う本人の問題意識が明確ではなく、高い評価は得られませんでした。

間嶋論文は、ギデンスの構造化論の応用可能性を検証しようとした論文であるが、研究ノートの域をでていないし、本人が読み込みが足りないのか判りにくいところも散見される。今後に期待というところである。

羽生論文は、NPOの組織的な実態を明らかにしようと言う意欲的な問題意識を持っていて個人的には高く評価したい論文であったが、多くの審査委員が指摘されるように組織の実態以前のボランティア概念の検討だけで終わっていて、その概念が組織との関連としてどうなるのかが意識されていないところに問題がある。

牧野論文は、手馴れたテーマであるのか、学説の検討だけでなんらの意味づけもなされていないように思えた。全員がそう感じたのか、もっとも得点が低い結果となった。

総評として、全員が指摘するところであるが、若い研究者の研究水準が低すぎると言うことである。問題意識がほとんど明確ではないことに起因するのではないかと思われるが、学会としては自由論議の報告者選定について一考されたほうが望ましいのではないかと思われる。

## 9. 次期全国大会

第21回全国大会

開催校：青森公立大学

開催日：平成16年8月7日(土)・8日(日)(6日(金)理事会)

実行委員長：吉原 正彦先生

## 10. 会計監事の交代

筒井 清子先生 小嶋 正稔先生(東洋大学)

## 11. 規約の改正

(旧)「(役員)第14条 本会に次の役員をおく。役員任期は3年とし重任を妨げない。ただし連続3選は認めない。」

(新)「(役員)第14条 本会に次の役員をおく。役員任期は3年とし重任を妨げない。ただし連続3選は認めない。幹事はこの限りではない。」

(旧)「第2条(奨励の方法)選定された学会研究報告には、……奨励金は1報告2万円とする。」

(新)「第2条(奨励の方法)選定された学会研究報告には、……奨励金は1報告5万円とする。」

## 12. 会員異動(敬称略)

### (1)新入会員

境 新一(東京家政学院大学)

松原 康雄(明治学院大学)

青淵 正幸(信州短期大学)

小濱 純(桃山学院大学・院)

肥田 日出生(明治学院大学)

馬越 恵美子(桜美林大学)

山下 剛(名古屋大学・院)

原 敏晴(流通科学大学・院)

篠原 光伸(成城大学)

松村 洋平(青森中央学院大学)

藤井 一弘(摂南大学)

郭 新平(立教大学・院)

紺野 卓(株ANJOインターナショナル)

藤原 七重(敬愛大学)

向井田 秀一(明治学院大学・院)

杉浦 慶一(東洋大学・院)

頼本 節雄((財)倉敷中央病院)

吉原 正彦(青森公立大学)

### (2)退会会員

張 松気、中井 節雄、保坂 俊司、廣田 俊郎、大橋 昭一、生駒 正之

真正 攘、斉藤 弘行、森本 三男、筒井 清子、山岡 熙子、羽田 新

### (3)逝去会員

清水 桂三、田村 剛

(会員数322名)

## 13. その他

## 9. 事務局より

9月の中京大学では多数の会員の方々のご参加ありがとうございました。受付にて、『経営哲学とは何か』の用意した冊数が不足し、何人かの会員の先生方には大変ご迷惑をおかけいたしました。念のため、お渡し出来なかった先生は恐縮でございますが事務局までご連絡下さいますようお願い申し上げます。

経営哲学学会事務局

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 明治学院大学経済学部 大平研究室

e-mail: ohira@eco.meijigakuin.ac.jp TEL & FAX 03-5421-5639

学会ホームページ: <http://www.jamp.ne.jp>